

第4回木曾川水系連絡導水路環境検討会 議事要旨

日 時：平成20年4月24日（月）14:00～17:00

場 所：じゅうろくプラザ（岐阜市文化産業交流センター）5F 大会議室

1. 開会
2. 主催者挨拶（中部地方整備局河川部長）
3. 座長挨拶
4. 議事

(1) 規約の改正

- ・ 目的の変更、情報公開の追加について、内容の確認のうえ原案が了承された。

(2) 報告事項

- ① 連絡導水路に係る動き
- ② これまでの環境検討会

(3) 本日の説明事項

- ① 環境影響検討の項目
- ② 予測・評価地域
- ③ 調査・検討の実施状況
- ④ 今後の調査・検討の予定

<主に次のような意見を頂きました>

- ・ 非常に長い導水路の区間には様々な植生景観があり、環境も異なっているので、これを一つの基準で取り扱うことはできない。改変区域を中心に精細な調査を行うことが不可欠である。
- ・ 水質シミュレーションでは、精度を把握することが重要であるので、インプットデータの詳細や実績値の再現性の確認結果を提示すること。また、徳山ダム、横山ダムの水質予測の計算条件と運用・取水条件等との関係を説明すること。
- ・ 取水位置の決定と絡んで桑原川の水質が長良川にどう影響を与えるかを押さえておかれたい。
- ・ 地下水シミュレーションについては、山間部等の地下水位データが不足しているため、今、行っているボーリング調査結果を反映することで、精度の向上を図ること。また、地質構造の区分けについて、現在、風化部と新鮮部という2つで行っているが、地域ごとに特徴があるので、ボーリング調査データも加味して、もう少し詳細に区分けして欲しい。

- ・ 今回提示された地下水モデルは、他の地域でも影響範囲の推定、湧水枯れの検討に用いているモデルなので、ボーリング調査結果及び水位観測データが反映できるなら、十分に使用できるモデルである。
- ・ 透水係数についても、仮定値でなく実際にボーリング孔で試験した現地の値を用いてシミュレーションするのが良い。
- ・ 地下水中の溶存成分を測ることで、（地下水の流れ出る）起源を知ることができるがあるので、代表的と見なせる箇所で工事前に水質を調べておき、そのごの変化を多少とも追跡しておく必要があると思われる。
- ・ 鮎の調査時期は、遡上、産卵、餌の繁茂といったポイントとなる時季を押さえること。
- ・ 迷入の交雑調査は、1つの河川の上流から下流の遺伝的変移を明らかにし、1つの河川における変動幅、変異幅をある程度おさえた上で、各河川間の比較を行うこと。
- ・ 猛禽類調査は、1シーズンでは見落とす可能性があるため、今年は、もう帰ったサシバやハチクマの夏鳥たちの調査を去年以上に慎重にやって頂きたい。また、夜の鳥類（フクロウ、アオバズク、ミゾゴイ、ヨタカ）について今年度、調査を希望する。
- ・ 鳥の調査について年4回行うとすれば、春の渡り（4月中下旬）に1回、初夏の繁殖の時期（梅雨に入る前）に1回、秋の渡り（9～10月）に1回、厳冬期（1～2月）に1回に実施するのが一番適切な方法と思う。
- ・ カワヒバリガイについては、導水管そのものの人工付着基盤としての意味や影響も少し念頭においてもらいたい。長良導水ではカワヒバリガイの調査結果があるので、参考になると思う。
- ・ 下流施設の水質、流向・流速調査については上げ潮・下げ潮、大潮・小潮の時期を対象に実施すること。
- ・ 塩水くさびの調査時は、河川流量を把握するとともに、上げ潮・下げ潮との関係を把握すること。
- ・ （下流施設からの放流による）河床の地形への影響（河床変動）についても把握・検討する必要があるのではないか。

5. 閉会